

基礎研究に基づいて 活動的な脊髄損傷者の褥瘡再発を予防するには？ 褥瘡発生機序の解明とその予防機器の開発に関する研究

なんのための研究？

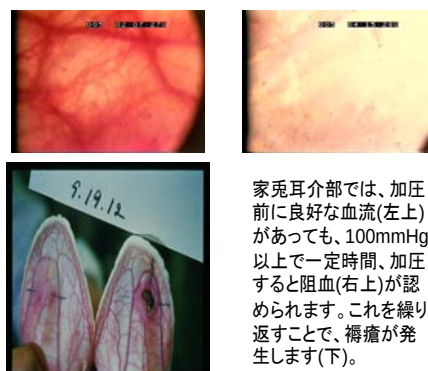
褥瘡(じよくそう、床ずれ)は運動麻痺があり、一定時間、同じ姿勢で同じ場所に圧力を受けつづけるなどして、血流が停止し、細胞や組織が壊死することから生じる皮膚潰瘍です。重篤な褥瘡の治療には、除圧や手術が必要です。周辺から大きな筋肉をもつ組織を移植する手術は、負担が大きいと共に、治癒まで長期間の療養を必要とし、就労継続を難しくすることもあります。



大転子部位に生じた浸出液がある褥瘡

研究のポイントは？

この褥瘡の再発を予防するために、
①発生メカニズムを再現性のあるモデルで研究し、
その得られたノウハウを、
②seating clinicで直接、活動的な脊髄損傷者の再発予防に生かしていくことが、求められています。



家兎耳介部では、加圧前に良好な血流(左上)があっても、100mmHg以上で一定時間、加圧すると阻血(右上)が認められます。これを繰り返すことで、褥瘡が発生します(下)。

実用化に向けて

脊髄損傷者や運動麻痺のある高齢者も、社会で活躍し続ける選択肢は、豊かな社会の形成に欠くことはできません。発生メカニズムに基づく褥瘡再発予防を目的とする実用化研究を通して、障害の有無に関わらず、個人の日常生活に対応した自発的な健康管理意識の啓蒙を目指します。

Seating Clinicにおける圧力分布に着目した褥瘡再発予防アプローチ

